

「地域と学校の新しいカンケイ」～WIN WIN より Happy Happy～

【8月16日放送内容】

DJ：さて、今回は下坂部小学校で地域と学校をつなぐコーディネーターの石田さんと、社会教育課の増田さんにお話をおうかがいします。お二方、よろしくお願いします。

石田・増田：よろしくお願いします。

DJ：では、まずは石田さん。下坂部小学校は昨年「地域とともにある学校」を目指して、尼崎市のモデル校としてコミュニティ・スクールをスタートしたとお聞きしていますが、どのような形でスタートされたんですか。

石田：下坂部小学校では、以前から地域で学校を支援する活動が盛んで、児童の登下校の見守りや図書ボランティア、地域の歴史を学ぶ郷土学習など幅広い分野の支援が行われていました。コミュニティ・スクールを設置してからは、更に、担任の先生方が必要とされている支援ができるよう、コミュニティ・スクールの会議で、地域でどんな応援ができるか話合っています。「地域の方の支援のおかげで子どもたちの成長を感じています。」と校長先生におっしゃっていただきました。

DJ：そうだったんですね。石田さんがコーディネーターとして、大事にされていることはありますか。

石田：地域と学校をつなぐため、関係する団体との連絡を密にするよう心掛けています。学校との連絡では、校長先生と直接お会いして打合せをしたり、ちょっとしたことでも電話連絡をするなど、校長先生はお忙しいですが、できる限りこまめに連絡を取るようにはしています。

DJ：関係する方々とのコミュニケーションを大切にされていらっしゃるんですね。

石田：はい。校長先生や担任の先生方との関係を深めて、何でも相談してもらえるようになればいいなと思っています。また、地域のいろんな方とつながりを深め、学校の応援団になってもらえる地域の方を増やしたいです。

DJ：皆さんといい関係が築けるといいですね。さて、下坂部小学校では学校と地域の皆さんでどのような活動をされていますか。

石田：はい。「校舎のペンキ塗り」をしました。下坂部小学校は、創立140年以上の歴史ある学校で、地域の方にとって愛着のある校舎なのですが、校舎の傷みが目立ってきていて、床がきしんだり、あちらこちらでペンキが剥げていたりしています。先生や子どもたちがペンキ塗りを計画していたのですが、スポーツクラブ21の方に声をかけたところ、普段、学校を使って活動している地域の方々が集まってくださり、みんなで校舎内の窓枠のペンキ塗りをしました。

増田：土曜日でお休みの日にもかかわらず、たくさんの方が来られていましたね。

DJ：そうだったんですね。素晴らしい支援活動ですね。地域のみなさんが下坂部小学校のことを大切に思

っていらっしやることがよくわかりました。その他にはどのような活動をされていますか。

石田：図書ボランティアの「ブックママ」の活動を紹介させていただきます。「ブックママ」は、16名の保護者や保護者OBの方が登録していて、毎週水曜日の昼休みに図書室で子どもたちに本の読み聞かせをしています。また、大型紙芝居を作って、年に1度の読書週間には、子どもたちに披露しています。

DJ：「ブックママ」の皆さんが大型紙芝居を作ってらっしやるんですか？

石田：はい、読み聞かせで集まった日に少しずつ作業しています。模造紙の大きさの紙に絵本を見ながら、絵を描いたり、色を塗ったり、みんなで楽しみながら作っています。去年は「ウエズレーの国」というお話の大型紙芝居を子どもたちに観てもらいました。とても好評で、子どもたちは、前のめりになりながら食い入るように見聞きしていました。子どもたちが喜んでくれるので、とてもやりがいがあります。

増田：最近、本を読む時間と学力との関係が話題となっています。学校の授業だけでなく、図書ボランティアのみなさんから読み聞かせをしていただくことで、本に対する興味や関心が高まって子どもたちの感性が磨かれていくと思います。

DJ：はい。その他には、どのようなことがありますか。

石田：昔遊びも地域の方が教えてくれています。1年生の生活科の授業で、昔遊びを取り入れたいと学校から相談があり、小田地域振興センターの方に協力いただいて、昔遊びを教えてください地域の方に来ていただきました。

DJ：どのような昔遊びを教えていただいたんですか？

石田：「めんこ」「ふくわらい」「だるまおとし」「けん玉」「羽根つき」「お手玉」などです。手作りおもちゃの作り方を教えてください方も来てくださり、「かざぐるま」や牛乳パックを使って「こま」や「とびはねるおもちゃ」を作って遊びました。子どもたちは、とっても楽しい時間を過ごすことができました。

増田：最近、学校には若い先生が増えていて昔遊びを知らない先生も多く、学校だけで教えるのは難しいんですよ。地域の方に昔遊びを教えてくださいと、先生方も助かるし、子どもたちの刺激にもなります。子どもたちにとっては、いろいろな人と関わることでコミュニケーション能力を高めることにもつながります。

DJ：いろんな昔あそびを通して、大切な力も身につけることができるということですね。子どもたちの喜ぶ姿を見ると、大人たちも自然と笑顔になりますよね

石田：そうなんです。みなさん、とても喜ばれていました。

DJ：さて、下坂部小学校では、地域の歴史について学ぶ郷土学習に地域の方が深く関わってくださっているそうですね。

石田：はい。下坂部小学校の校区には、江戸時代に人形浄瑠璃や歌舞伎の世界で活躍した劇作家の近松門左衛門ゆかりの地があって、子どもたちは授業で近松門左衛門のことや、伝統芸能について学んでいます、子どもたちは、親しみをこめて「近松さん」と呼んでいます。

DJ：そうなんですね。地域の方からは、どんなことを教えていただくんですか？

石田：下坂部小学校には、浄瑠璃クラブと和文化クラブがあります。浄瑠璃の「寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）」という演目の語りや舞い、三味線や太鼓の演奏を地域の方が学校に来て、子どもたちに教えてくださっています。

DJ：子どもたちの演奏や舞いが披露されることはあるのでしょうか。

石田：毎年、12月の創立記念日には「近松デー」を開催し、子どもたちが授業で近松について学んでいることを、保護者や地域の方に観ていただいています。また、浄瑠璃クラブや和文化クラブの子どもたちは、本格的な衣装を身にまとい、自分たちで演奏する三味線や太鼓、語りに合わせて「寿式三番叟」を舞い、日頃の練習の成果を発表しています。また、子どもたちに本物に触れる機会を作るため、専門家や地域の方々の協力を得て、浄瑠璃や三味線や太鼓の演奏の鑑賞も行っています。

DJ：そうなんですね。とても素晴らしい取り組みです、増田さん。

増田：私も「近松デー」で、三味線や太鼓の演奏や「寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）」の舞いをみせていただきました。本当に素晴らしかったです。「近松」を地域や学校の誇りとされ、「近松」に対する文化が地域で長く受け継がれているんだなと感じました。

DJ：この「近松」の取り組みは、下坂部小学校ならではのですね。石田さんは、今後、地域学校協働活動をどのように進めていこうと思われていますか。

石田：これからも「近松」中心として取り組んでいくことは変わりありませんが、学校の要望に応えるだけでなく、地域として何ができるのかを主体的に発信し、活動を広げていきたいと思います。地域の方に学校に来ていただいて、授業の支援や学校の環境整備をさらに進めてくなかで、地域の方に学校や子どもたちの様子を知っていただくことから始めたいです。

増田：石田さんの考えられていることがまさしく社会教育課で考えていることです。「学校を拠点とした地域学校協働活動」をめざしていこうとされる石田さんをこれからも頑張って支援していきたいです。

DJ：今後ますます学校と地域の連携が深まり、いいカンケイが築けるといいですね。今回は石田さんと増田さんにお話を伺いました。お二方、どうもありがとうございました。

石田・増田：ありがとうございました。

DJ：さて、9月は「子どもの安心安全を守る武庫北小学校の地域学校協働活動」をテーマに、武庫北小学校コーディネーターの田近さんと増田さんの3人でお送りいたします。それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに。